
遊戯王 信念持ちし殺人鬼

龍賀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王 信念持ちし殺人鬼

【Nコード】

N8096Y

【作者名】

龍賀

【あらすじ】

なのはの世界に飛ばされるはずが神の手違いによって遊戯王GXの世界に・・・この世界では龍斗は自分の信念を貫き通せるのか！

ブログ 何事も確認が大事（前書き）

さて、まだ2作品が完結していないのに新たに書き始めました。
他の2作が優先なので遅くなるでしょうが、楽しんで頂ければ幸いです

ブローグ 何事も確認が大事

神に飛ばされ、今は・・・何処だ？ここ。

「すまんのぉ、なのはの世界に送るつもりが遊戯王GXの世界に飛ばしちゃった」

「^{バラ}解体すぞ？」

「すいませんでした！！」

どうやら遊戯王の世界らしい。

はぁ・・・遊戯王のカードなんて持ってきてないぞ？

「それは大丈夫じゃ！ワシがお主の前世で使っておったデッキを持ってきたのでな！」

「・・・シンクロとエクシーズは？」

「無論ある！」

なら大丈夫か？いや、別になくても頑張れるデッキはあるが。

『マスター、どうやら試験のようです』

「む？そうか」

コイツはブラッククロス、まあ今はクロスという愛称で呼んでいる。

転移させられる前に自己紹介をし終えた。

「龍識・・・いや、今は龍斗か、早く行かなければいかんぞい？」

「誰のせいだ誰の・・・後、今は龍識でいい」

最初は記憶を操作しようとしたらしいが、娘にばれて半殺しにされたせいでしなかったらしい。
まあありがたいがな。

さて、デッキの確認だな。

『遊戯王ですか・・・どのようなデッキを使ってるんですか?』

「む? ああ、どうやらすぐにしなければならぬらしいからしながら説明する、その方がわかりやすいだろ?」

『そうですね』

「受験番号2番・・・はあ、また中途半端な」

まあいいか。

『マスター』

「何だ?」

『このままですと失格になりますよ?』

「何?」

『後、5分で順番が来ます』

「・・・今から向かえば?」

『恐らく頑張っても10分はかかるかと』

・・・いきなり終わりか?

いや、まだだ。

「いくぞ、いきなり終わりたくはない」

『はい、スタンドですか?』

「いや、今回は転移だ」

『了解』

すぐに転移した。

間に合えばいいが。

「む、君は・・・受験番号2番かな？」

「はい」

「今110番の子が行ったよ、急ぎなさい」

「了解です」

どうやら間に合ったようだ。

よかった。

「ガッチャ！楽しいデュエルだったぜ、先生！」

どうやら十代のデュエルは終わったらしい。
なら、

「すいません、受験番号2番、遅刻しました」

「いいですゝノ、デゝワ私が相手してあげルゝノ」

「・・・了解です」

間違いなく名誉挽回のためだろうな。

さて・・・デッキはこれだから・・・大丈夫だな、たぶん。

さあ、久々のデュエルだ、全力で頑張ろうか。

「「^{デュエル}決闘！！」」

森 龍斗 LP 4000

クロノス LP 4000

「ワタシィの先行」

ふむ、手札は・・・微妙だな。

「ワタシは、カードを二枚セットし、大嵐を発動なノ〜ネ」

大嵐

通常魔法（制限カード）

フィールド上に存在する魔法・罠カードを全て破壊する。

黄金の邪神像か。

黄金の邪神像

通常罠

セットされたこのカードが破壊され墓地へ送られた時、

自分フィールド上に「邪神トークン」（悪魔族・闇・星4・攻/守1000）1体を特殊召喚する。

「破壊されたノ〜ワ、黄金の邪神像、よって邪神トークンを二体特殊召喚すル〜ノ」

古代の機械巨人か。

効果モンスター

星8/地属性/機械族/攻3000/守3000

このカードは特殊召喚できない。

このカードが守備表示モンスターを攻撃した時、

このカードの攻撃力が守備表示モンスターの守備力を超えていれば、その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

このカードが攻撃する場合、

相手はダメージステップ終了時まで魔法・罠カードを発動できない

「この二体を生贄に、古代の機械巨人を召喚すルゝノデス」

古代の機械巨人が召喚された瞬間、周りから「終わったな」とか「アイツも可哀相に」とか「あの子可愛くね?」とか聞こえてきた。オイ、そのの、俺は男だ。

「ワタシは、カードを2枚セットして、ターンエンド(ワタシイがセットしたのは聖なるバリア・ミラーフォースと奈落の落とし穴なノゝネ、これでワタシの勝利は完璧なノゝネ)」

どうやら相手がフラグを建てたみたいだ。
まあいいか。

「では、俺のターン、ドロー!」

ふむ、何とかなるというより・・・これは酷い。

「俺は手札抹殺を発動、互いに手札全てを墓地に送り、送った枚数分ドローします」

手札抹殺

通常魔法(制限カード)

お互いの手札を全て捨て、それぞれ自分のデッキから捨てた枚数分のカードをドローする。

周りが馬鹿にしているな・・・交換カードの何が悪いのやら。

「この瞬間！墓地に送られた、スノウ、グラフィア、ブラウ、シルバ、ゴルドの効果発動！」

「なんでス〜ト！？」

「スノウの効果でデッキから暗黒界と名のつくカードを1枚加える！」

暗黒界の術師 スノウ

効果モンスター

星4 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻1700 / 守0

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、自分のデッキから「暗黒界」と名のついたカード1枚を手札に加える。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、

さらに相手の墓地に存在するモンスター1体を選択し、

自分フィールド上に表側守備表示で特殊召喚する事ができる。

「効果で暗黒界の門を回収！さらにグラフィアの効果でそちらのセツトカード1枚を破壊！」

暗黒界の龍神 グラフィア

効果モンスター

星8 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻2700 / 守1800

このカードは「暗黒界の龍神 グラフィア」以外の

自分フィールド上に表側表示で存在する

「暗黒界」と名のついたモンスター1体を手札に戻し、墓地から特殊召喚する事ができる。

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、相手フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、さらに相手の手札をランダムに1枚確認する。確認したカードがモンスターだった場合、そのモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する事ができる。

奈落か・・・ならもう1枚は攻撃反応型かな？

「さらにゴールドとシルバを自身の効果によって特殊召喚！」

暗黒界の軍神 シルバ

効果モンスター

星5 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻2300 / 守1400

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、このカードを墓地から特殊召喚する。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、

さらに相手は手札を2枚選択して好きな順番でデッキの下に戻す。

暗黒界の武神 ゴルド

効果モンスター

星5 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻2300 / 守1400

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、このカードを墓地から特殊召喚する。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、

さらに相手フィールド上に存在するカードを2枚まで選択して破壊する事ができる。

「さらにブラウの効果で1枚ドロー！」

暗黒界の狩人 ブラウ

効果モンスター

星3 / 闇属性 / 悪魔族 / 攻1400 / 守 800

このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

相手のカードの効果によって捨てられた場合、さらにもう1枚ドローする。

周りがざわざわ言っている・・・これくらいで慌てるなよ。

「さらに！俺は暗黒界の取引を発動！互いにドローしその後、一枚墓地に送る！」

暗黒界の取引

通常魔法

お互いのプレイヤーはデッキからカードを1枚ドローし、その後手札を1枚選択して捨てる。

「効果でもう1枚のグラフアを墓地へ、よってもう1枚のセットを破壊！」

やはり聖バリか・・・危なかったな。

「すいませんが・・・このターンで終わらせます！」

「なんデスート!?」

「俺はさらに暗黒界の門を発動！」

暗黒界の門

フィールド魔法

フィールド上に表側表示で存在する

悪魔族モンスターの攻撃力・守備力は300ポイントアップする。
1ターンに1度、自分の墓地に存在する

悪魔族モンスター1体をゲームから除外する事で、
手札から悪魔族モンスター1体を選択して捨てる。

その後、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

「効果によって墓地のブラウを除外！手札のブラウを墓地に送りドロー！さらにブラウの効果でもう1枚ドロー！」

これで大丈夫かな？

「墓地のグラフィアの効果！場のグラフィア以外の暗黒界と名のつくモンスターを手札に戻し、このカードを墓地から特殊召喚する！」

暗黒界の龍神 グラフィア

攻3000

「何故攻撃力が上がってルノ!?」

「門の効果により、悪魔族は攻撃力が300アップします」

「なんでスート!?」

よし、これで墓地の闇属性は3枚になったな。

「墓地に闇属性のモンスターが3体いる事によって、ダーク・アイムド・ドラゴンを特殊召喚！」

ダーク・アイムド・ドラゴン

効果モンスター（制限カード）

星7/闇属性/ドラゴン族/攻2800/守1000

このカードは通常召喚できない。

自分の墓地の闇属性モンスターが3体の場合のみ特殊召喚する事ができる。

自分のメインフェイズ時に自分の墓地の闇属性モンスター1体をゲームから除外する事で、フィールド上のカード1枚を選択して破壊する。

「ダムドの効果発動！墓地の闇属性を1枚除外し、フィールド上のカード1枚を破壊！対象は古代の機械巨人！」

ダムドが腹の部分の武器を放ち、古代の機械巨人が破壊される。

「ノッウ、ワタシの古代の機械巨人ガアッ!?」

この時点で終わりだが・・・まだ行動できるので行動する。

「さらに俺はグラフアをもう1体特殊召喚する！」

これでゴールドとシルバの両方が戻ったな。

「門を張替え、さらに効果で墓地のスノウを除外、ゴールドを墓地に捨て、ドロー！ゴールドを効果で特殊召喚！」

暗黒界の取引か。

「取引を発動！効果は・・・わかってますよね？」
「グヌヌ」

「俺は効果で1枚ドロし、シルバを墓地に送る・・・よってシルバを特殊召喚！」

これで場が埋まった。

グラフア	攻3000×2
ダムド	攻2800
ゴールド	攻2600
シルバ	攻2600

計14000か・・・オーバーキルにもほどがあるか。

クロノス先生なんて、顔が真っ青だしな・・・いや、真っ白か？

「全員で直接攻撃！」

「ペペロンチノ！」

LP4000 LP-10000

「ありがとうございました」

「ガックシ」

ふむ、久々だが・・・引きがよかったな。

この調子だとライイエローかな？

そう思いながら俺はこの場を後にした。

ブローグ 何事も確認が大事（後書き）

今回から始めました遊戯王！

龍「オリカはまだ完全に調節できていないため、今回は暗黒界だ」

ストラクのおかげで強くなりましたからね。

龍「お前の知り合いは「暗黒界なんて滅んでしまえ」とか言ってたな」

まあ何せ手札抹殺さら大量展開だもの、仕方ないね！

龍「そんな知り合いはラヴァルだったな」

爆発や炎熱伝導場は卑怯だと思っんだ。

龍「確かに、一気に墓地肥やしからの大量展開だからな」

ラヴァル怖い。

龍「まあ・・・お前はカラクリや暗黒界、遊星もどきやリクルエクゾで遊んでるだろ？」

うん。

龍「ドッコイドッコイだ」

・・・そうだね。

龍「さて、次回の更新はいつになるかわからん、ネギまの方が更新し終えたら投稿予定だ」

なので気楽に気長にお待ち下さい。

龍「もしかしたら早くなるかもだしな」

では！また次回！！

龍「ではな」

第1話 予想外な事は案外すぐに起きる（前書き）

はい、遅くなりましたが第1話です。

残念ながら決闘はしません。

次で行けたらいいなあ〜と思ってます。

今回で原作キャラに会います！まあ想像はつくと思いますが。
それでは！どうぞ！

第1話 予想外な事は案外すぐに起きる

さて、あの試験も終わり今は船に乗っている。
俺は何故かオシリスレッドだった。
別に構わないんだが。

『恐らくマスターが試験で頑張りすぎた結果だと思っていますが？』
「あれはあの引きが悪い」

俺だつてあそこまで回るとは思わなかったんだよ。
久々だったからな、あのデッキを回すのは。
他のデッキも渡されたから色々試してみよう。
どうやらシンクロを使っても大丈夫そうだし。

「おい」
「ん？」

クロスと話し込んでいると、あの時の俺の前に決闘していた少年が
現れた。

一応名前は知っているが、

「君は？」

「俺か？俺は遊城十代っていうんだ、よろしくな！」

「ああ、俺は・・・」

どちらで名乗るべきか・・・森か零崎か。

『（マスター、零崎でいいと思います、別に有名ではありませんで
しょうし）』

「零崎龍識だ、龍識でいい」

「じゃあ俺も十代でいいぜ！」

本当に元気だな。

「で？用件はなんだ？まさか自己紹介だけではあるまい？」

「ん？おう！俺と決闘してくれ！あの決闘観てたらワクワクしてきたんだ！」

原作でも決闘好きだったはずだが・・・まさしくその通りだな。

「ここでは無理だ、あっちに着いたらな、同じレッドなんだからいつでもできるだろ」

「そうだな！なら楽しみにしておくぜ！」

「ああ、俺も全力で相手しよう」

「その話・・・俺も混ぜてくれないか？」

十代と決闘の約束をしていると、ライイエローの服装のやつが来た。
コイツは・・・

「ん？アンタは？」

「俺の名前は三沢大地だ、よろしくな、2番と1番」

何故俺を見て1番という？

・・・クロノス先生を1ターンキルで倒したからか？

「俺の名前は零崎龍識だ、番号で呼ばれる筋合いはない」

「俺には遊城十代って名前があるんだ、十代って呼んでくれよな」

「ああ、すまないな、十代、龍識」

どうやら実技試験を観ていたらしい。
まあ終わったら観るやつは多いしな。

「で？三沢も決闘か？」

「ああ、俺も君と戦いたくてね、もし君用のデッキが出来たら相手してくれるかい？」

「別に構わない、その時は全力で相手する」

どんどん増えてくるな。

まあ望む所だが。

というより・・・何故だろうか、三沢が後半になると空気になる気がする。アニメの方だとなつてた気がするし。

「もうそろそろ着く、また今度会おう」

「ああ」

「おう！」

どうやらもう着いたらしい。

さっそく降りるか。

「いくぞ、十代」

「ああ、くうく！一体どんなやつがいるんだろうな！楽しみだぜ！」

さすが決闘馬鹿だな・・・無論褒め言葉だが。

『（マスター、神から新しいデッキが届いているみたいです、寮のマスターの部屋においてあるみたいです）』

「（そうか・・・変なデッキでなければいいが）」

まあ・・・楽しみにしておくか。

「おーい！龍識！早く来いよ！」

「ああ、今行く」

さて、レッド寮に向かうか。

『まあ・・・住めば都といえますし』

「おい、それは励ましか？」

今日の前にレッド寮がある・・・予想外だな。

まあ・・・嫌いじゃないけどな、こういう場所は。

「さて、俺の部屋は・・・十代の横か」

何ともご都合主義だな。

『デッキとカードを確認しましょう』

「そうだな」

十代とも約束しているしな。

そう思い、部屋に入った。

予想以上に綺麗だったのは驚きだ。

部屋は平均的な家のリビング並み・・・大体10畳くらいか？
にベッド+机があるな。

うん

「十分だな」

『そうですか？』

「ああ、それよりも」

叫ばれた・・・そんなに俺は女顔か？

「（確実に女顔ですよね）」

「（後で話しな？クロス）」

「（スイマセンデシタ）」

「（遅すぎたな）」

「（アッー）」

さて、うるさいのは何とかなったから十代と一緒に向かうか。

「じゃあ行くぞ、十代、翔」

「「おう！（ハイッす！）」」

まあ万条目があるだろうから・・・さっそく試すか。

そう思い、デッキを入れて十代の言う決闘場に向かった。

第1話 予想外な事は案外すぐに起きる（後書き）

後書きコーナー！！

龍「遅い、何をしていた」

構成の練り直し+EXVS

龍「・・・仕方ないと思ったらコレか」

すいません。

龍「・・・感謝コーナー」

白夜様、ユタ様、感想ありがとうございます！

龍「まだまだ未熟ながら頑張っている、と思っている、遊戯王のプレイングも勉強していくので気長に、気楽に待っていてくれ」

次はネギま更新予定です！

龍「ではな」

ではでは！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8096y/>

遊戯王 信念持ちし殺人鬼

2011年12月5日20時12分発行